銀行「小さな火種になりたい」　お堅い職場、副業で磨く－My Purpose 銀行を変える(1)

2022/11/28 02:00 日本経済新聞電子版　2182文字

銀行って古くさい。堅い。とりわけ就職を控えた学生には前例や年次主義が支配し、働きにくそうとの印象が強いようだ。お金を扱う銀行は経済や地域社会に与える影響が大きい。社会貢献の実感が持てる仕事は多い。大きな組織だけに風土の改革はゆっくりだが、しがらみを打破する人たちがいる。銀行を変える「小さな火種」を紹介する。

「このまま金融だけやっていて大丈夫なのだろうか」。みずほ銀行の仲本雅至さん（２８）の転機は、中国・上海に出張に行ったときだった。当時入社３年目だった仲本さんは都内の支店で法人営業をしていた。取引先企業に同行して上海のテック企業を訪問し、横のつながりを生かしたイノベーションの空気を肌で感じた。

日本の銀行は世界に取り残されるのではないか。自分も何かしたい。そんな焦燥感に駆られていた２０１９年秋、ちょうどみずほフィナンシャルグループ（ＦＧ）で社員の副業・兼業が解禁された。副業解禁はメガバンクで一番乗りだった。

焦燥感に駆られ副業

仲本さんは副業の制度ができてから間髪を入れず１２月末に手を挙げた。ぼんやりと「デジタルで人の役に立つことがしたい」と起業を考え、コーチングのマッチングサービスなどを経て行き着いたのはWebマーケティングだ。

今はインスタグラムの運用代行などで稼ぐ。電子商取引（ＥＣ）サイトに誘導したり、知名度を高めてリアル店舗に足を運んでもらったりとＳＮＳ（交流サイト）の潜在力は大きい。アマチュアサッカーチームのアカウント運用を受注し、格上リーグのチームをフォロワー数で抜いたことも。「魅力的な人や活動をもっと知ってほしい」（仲本さん）

仲本さんは本業でもみずほ銀行が提供するスマートフォン決済「Ｊコインペイ」のマーケティングに携わっている。みずほはＪコインのホームページやアプリでのマーケティングを代理店に外注していたが、仲本さんが副業で培ったノウハウを還元し、一部を内製化できるようになった。

みずほ銀行で働きながら副業もこなす仲本雅至さん

銀行では副業なんてあり得なかった。それでも、柔軟な働き方を認めないと、若者が銀行から離れてしまう危機感がある。就職人気ランキングのトップ10位に食い込むのが当たり前だったメガバンクだが、２３年卒の順位を見ると三菱ＵＦＪ銀行が２１位、みずほは４３位に沈む。

スタートアップの熱量に圧倒

医療向けの人工知能（ＡＩ）画像診断システムを手掛けるスタートアップ、エルピクセル（東京・千代田）の塩原陽輝さん（29）は三菱UFJ銀行からの出向者だ。社内公募に手を挙げて22年4月にエルピクセルに移った。予算の策定や経理、株主総会の準備などコーポレート部門の何でも屋として活躍する。

塩原さんがスタートアップに興味を持ったのは、渋谷支店で働いていたときだ。法人担当として任されたのは上場前後のスタートアップで「熱量のすごさに圧倒された」。自分もスタートアップで働いてみたいと思うようになった。

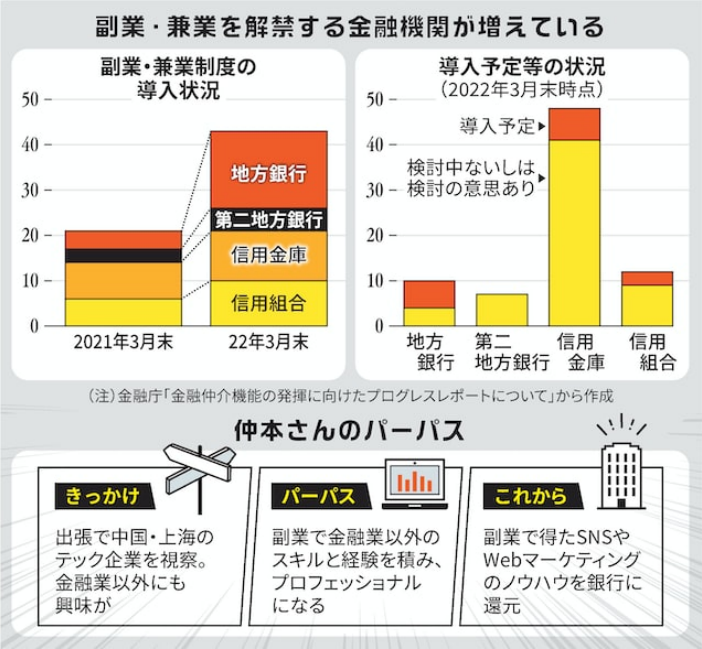
出向当初は銀行との文化の違いに驚いた。出社時間や勤務場所が自分の裁量で決められるのが新鮮だった。専門用語に戸惑ったが、銀行はマニュアルが整備され分からないことがあればすぐに調べられる。スタートアップでは一から自分で調べなくてはならない。

銀行のトップは「変わることの必要性」をメッセージで繰り返す。「現場まで十分に伝わっていないのではないか」と感じることもあった。塩原さんは「銀行を変える小さな火種になりたいですね」と笑顔で話す。

「脱銀行」で農作業

千葉大学柏の葉キャンパス（千葉県柏市）内のビニールハウス。イチゴ栽培に精を出すのは、Loco Door（ロコドア）社長の水流（つる）勇雄さん（53）だ。協和埼玉（あさひ）銀行（現りそな銀行）に入行して30年。法人営業でキ

ャリアを積んできた。舞台を変えて農業を通した地域活性化に取り組む。



中期経営計画で脱銀行を掲げるりそなホールディングスは、地方創生を目的としたロコドアを7月に立ち上げた。設立当初から会社を任された水流さん。「何事も基本となるのは食べること」と農業に注目した。たどり着いたのは体験学習だ。例えばマスカット。通常のマスカットは子供の背の高さで取れないところに実がなる。そこで子供たちの背の高さに合わせたマスカットを作り、子供でも取れるようにした。

現在はイチゴを準備する。色や形、においの異なる複数の品種のイチゴを栽培して、子供たちにそれぞれの特徴や違いを実感してもらうのが狙いだ。子供たちが走り回っても問題のないようイチゴを植えるレーンの間のスペースを十分に確保するなど、子供たちの体験をとことん重視する。

農業は人手不足が深刻だ。16年に158万人だった農業従事者数は21年には130万人に減少し、65歳以上の割合は約7割に上る。生活の基本になる食が衰退すればあらゆる産業が立ちゆかなくなる。日本の農業への危機感は強く、担い手を育てる目的で事業を始めた。「子供たちが農業に興味を持つきっかけになるような体験学習の場を提供したい」と話す。

銀行の役割は今も昔もお金を通じて企業の成長や地域社会に貢献することだ。銀行員には課題を解決する高い能力が求められる。スキルを磨くために、副業や起業に踏み切る若手が出てきた。前例主義や年次主義がはびこるようでは能力を発揮できない。「バンカー革命」は確実に起きつつある。

（日高大、五艘志織）

許諾番号30097370　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。
本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.